

浦塩航路案内

22

441



浦塩

大阪商船株式會社

026712-000-4

22-441

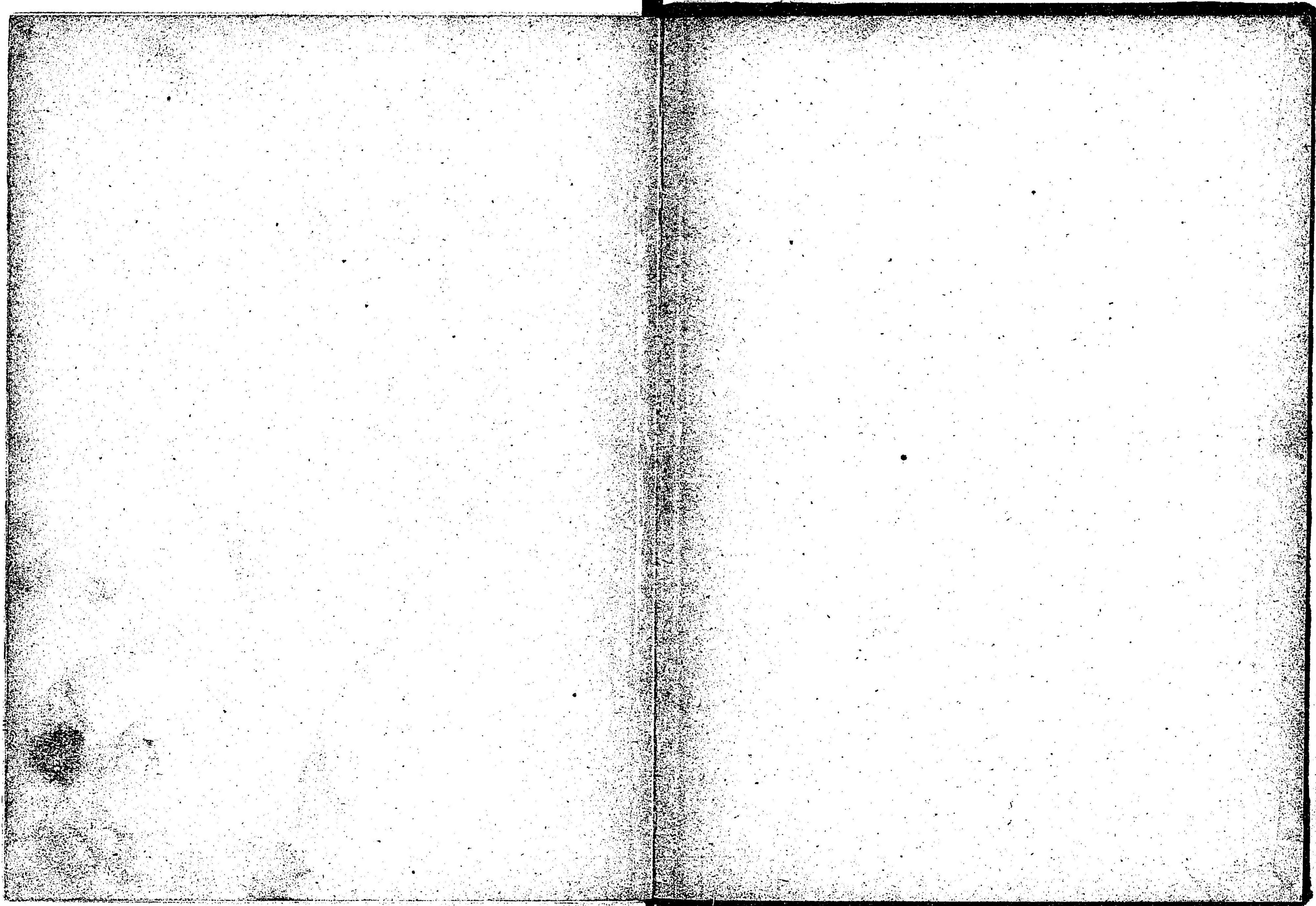
浦塩航路案内

大阪商船株式会社

M41

ADD-0408





○浦鹽並に浦鹽以西への旅客に御注意○

必ず海外渡航旅券を携帯さるゝこと。此旅券には露國領事の裏書が必要。

浦鹽及其以西に於て外國貨幣は流通せず、依て信用狀又は露貨にて携帶せらるゝを必要とし、露社發賣代理店大和田商店銀行部に於て便宜引換の御事に際すべし。

浦鹽は日中城巖地にて護身用ベルト、杖、刀剣類、手鏡、香水、化粧箱、地剛、製園器械、他より依頼せられたる物品等常に嚴密なる検査を受けらるべし。是等携帶の爲め往々不便の災禍を蒙るゝものあり、携帶を見合はざるゝを公金の策とす。

四、酒類を食料、香水、煙草等は數量制限せらるゝ。浦鹽に於て旅行用と見なさず、新貨品に試飲せらるゝに付き携帶數量に注意せらるゝを要す。

五、冬季十二月より三月迄は、沿海州并に西比利亞内地は寒氣猛烈にして、春夏の候は雨露多し、旅客は時季に應じ相當の御用意を所望す。

資本 壹千六百五十萬圓
 社 債 參百五十萬圓
 所有船舶 百拾五隻
 全上總噸數 拾六萬噸

一九一七年創立
阪商船株式會社
 大阪市北區富島町六十四番地
 電話番號 運輪課 二六二番
 電話番號 內航部 二六三番

○日本歐洲各地間旅行日數表

敦賀浦鹽間 社船 鳳山丸
 浦鹽以西 西比利亞鐵道及其連絡列車

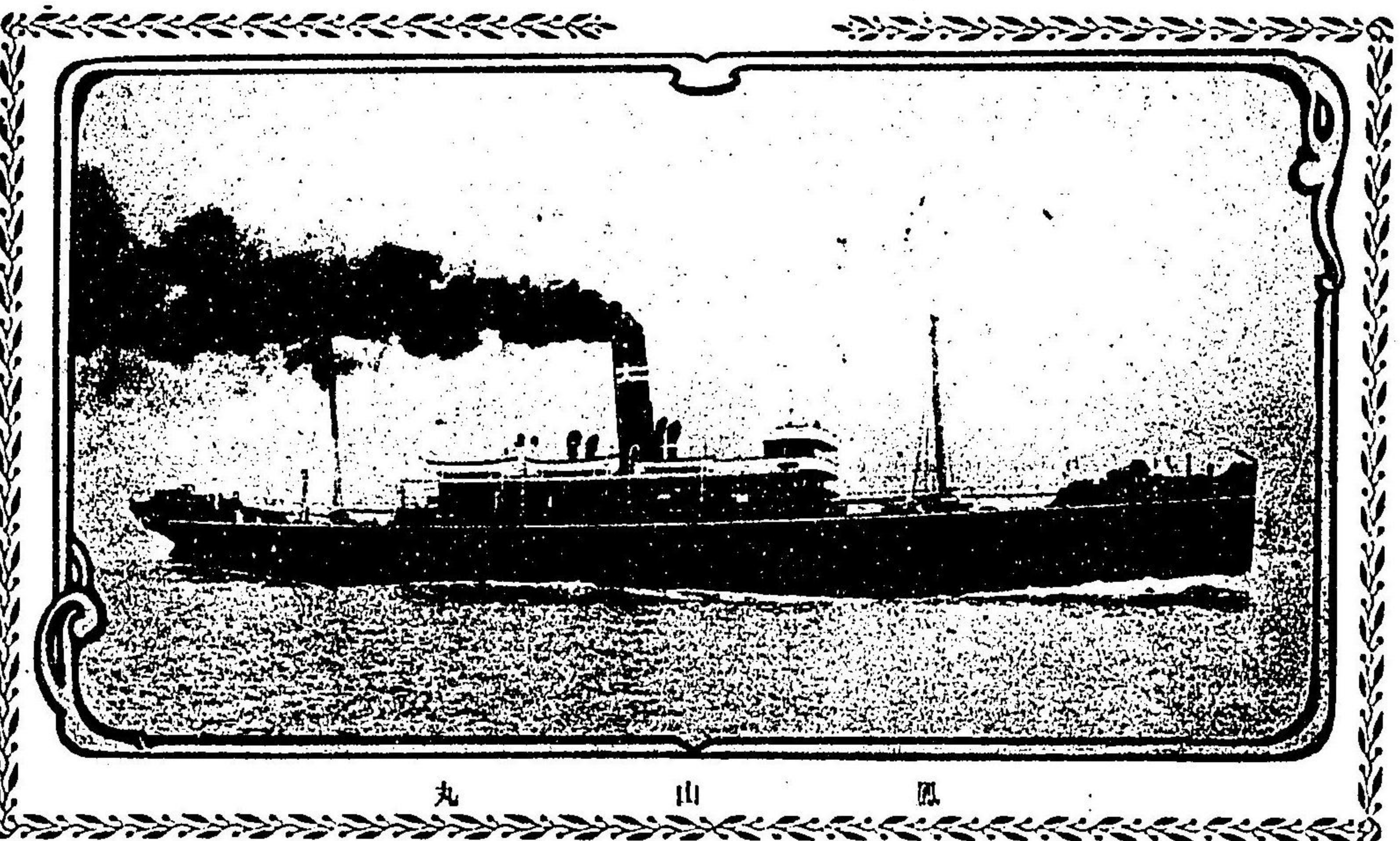
| | | | |
|-------------|-----|-------|-------|
| イモル | クツク | 四、四分一 | 六、四分一 |
| セントピーターズブルグ | ウ | 二、二分一 | 三、二分一 |
| ワ | ソ | 二、二分一 | 三、二分一 |
| ベ | リ | 二、二分一 | 三、二分一 |
| パ | ン | 二、二分一 | 三、二分一 |
| ロ | ン | 二、二分一 | 三、二分一 |

浦鹽より 敦賀より

大阪商船株式會社 寄贈本



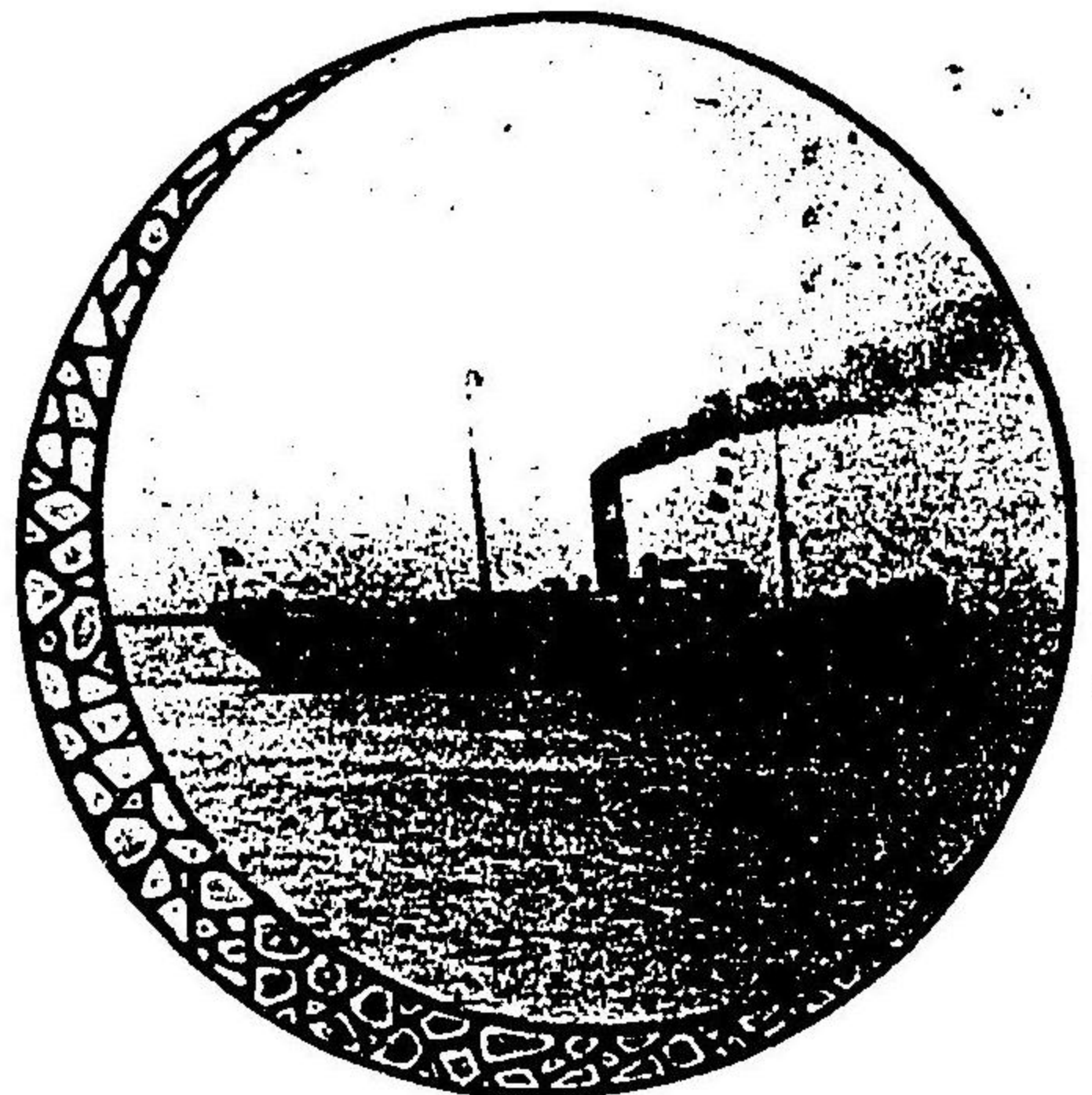
浦鹽航路案内



鳳山丸

我大阪商船株式會社の經營になる、敦賀、浦鹽斯德直航線並に小樽浦鹽斯德廻航線は、帝國政府より我會社に下附せられたる航海命令により開航せる處にして、浦鹽直航線にありては、總噸數二千五百噸以上、速力十四海里以上の快速力を有する旅客船を以て、毎週一回敦賀浦鹽兩地を發着せしめ、浦鹽廻航線にありては、總噸數一千四百噸以上、最強速力十一海里以上の船舶を以て一ヶ年二十二回小樽、函館、七尾、新潟、伏木、青森、浦鹽間に廻航せしむるにあり、蓋し此二航路たるや、我大日本帝國と密領亞細亞北滿州並に蒙古地方との最も緊要なる聯鎖たるは勿論、歐亞兩大陸の北部を横貫する西比利亞大鐵道により、東洋各邦と歐洲諸國とを結付くる運輸交通の最も樞要なる公路にして、我會社に於ては、夙夜海陸設備の改善に辛苦經營し、世界交通の大幹線の一要素たる大任を完ふせんことを期しつゝあり。

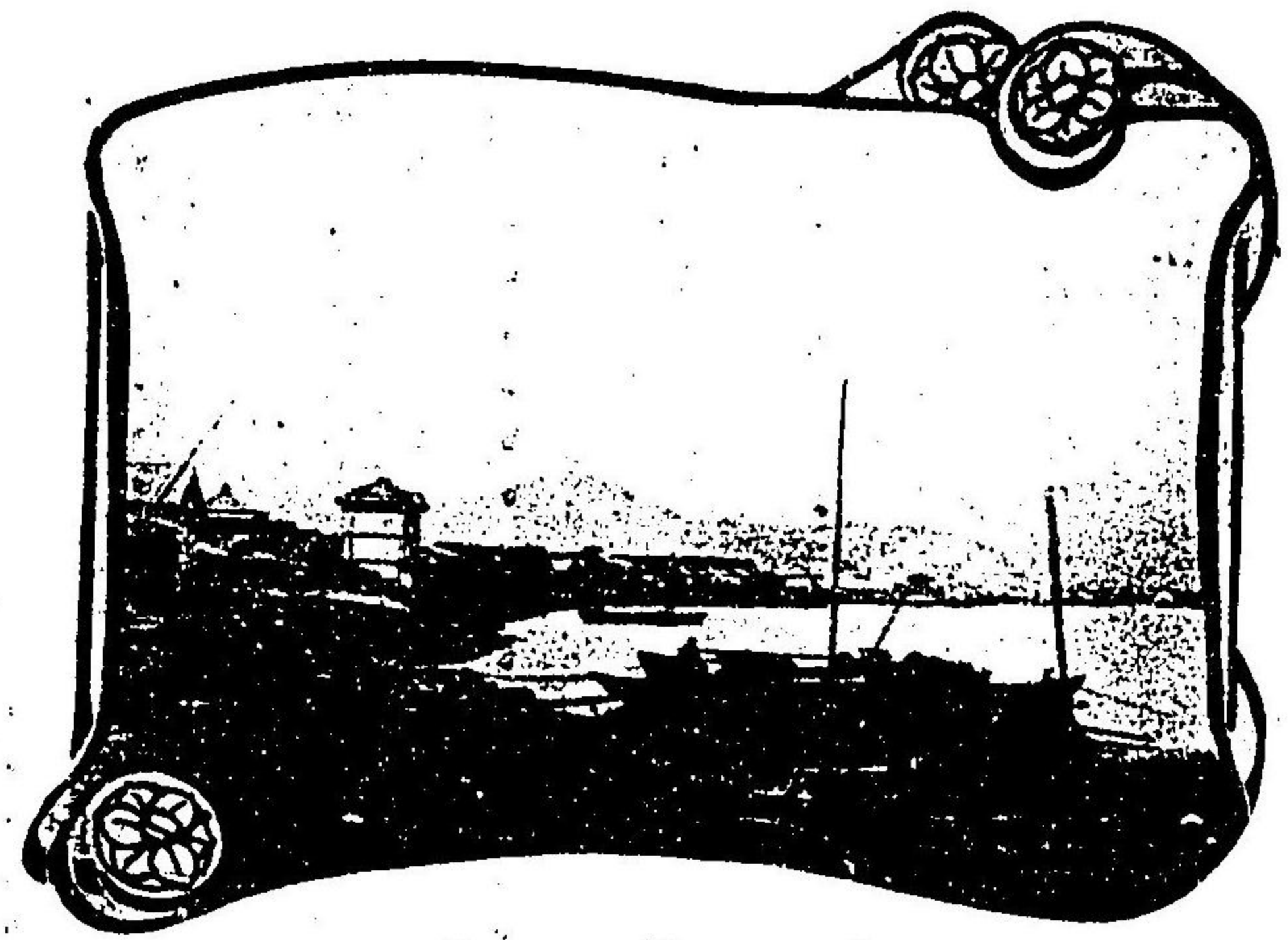
浦鹽直航線に使用せる客船は、實に如上の目的により、明治四十年四月を以て竣功したる最新式汽船鳳山丸にして、總噸數二千五百〇九噸、船材鋼鐵、全長三百二十尺、幅三十九尺七二、深さ二十一尺五九、三聯成汽機を備へ、公稱馬力百六十



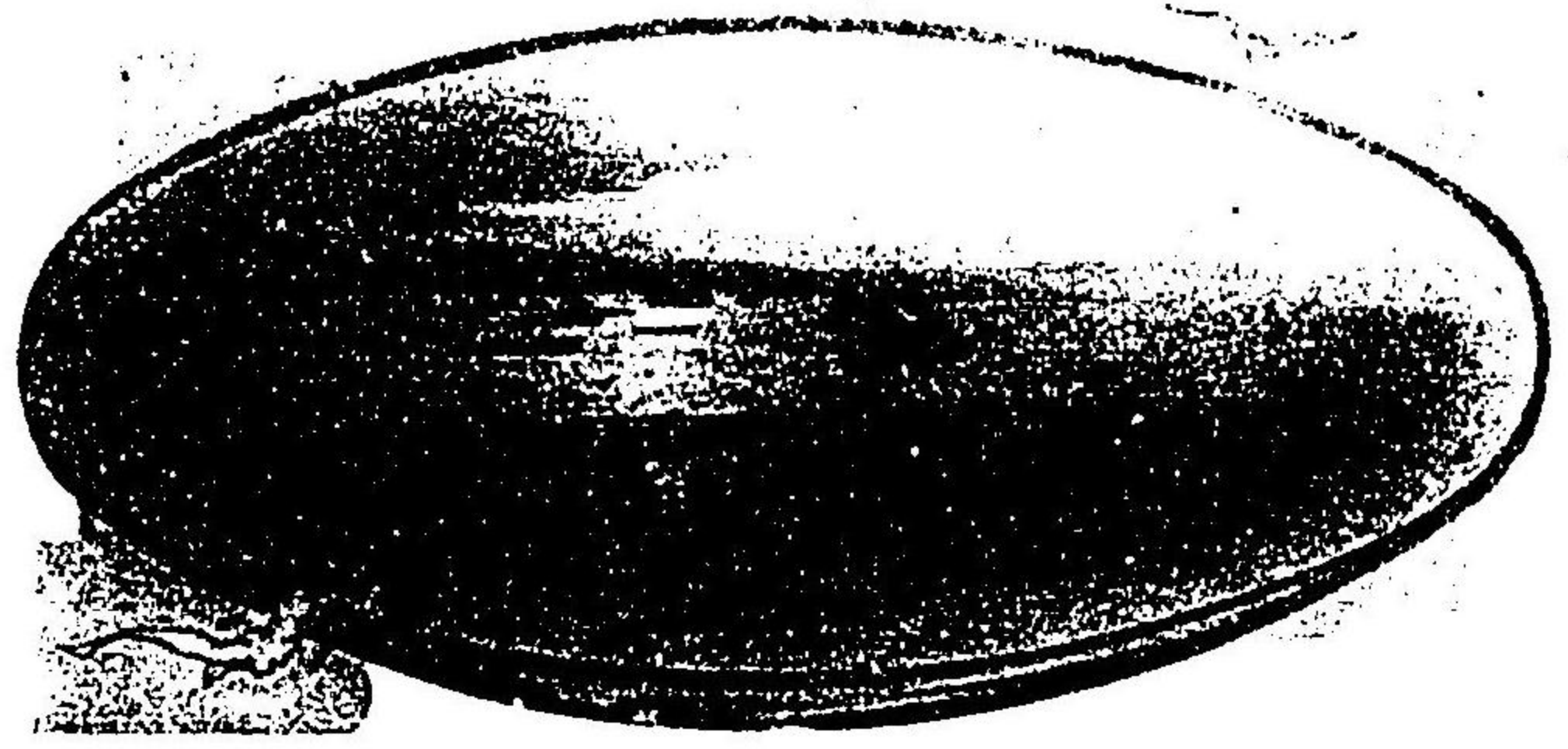
四、七〇、速力は最強一時間十五海里強、快駿遙に當航路社外船の群を抜く、電氣冷藏室等船内の設備何れも最新の發明並に改良方法に基き、貨客に對し殆んど間然する處なし、乗客定員は、一等貳拾八人、二等參拾貳人、三等百五拾七人にして、一二等客室は船体の中央部に位し、波浪澎湃の間毫も動搖を感せず、一二等共に廣潤莊麗なる食堂を有し、散步甲板後部には喫煙室あり内に「バー」を設け、茶菓飲料等乗客各位の望に應ず、食堂には大形蓄音器、碁、將棋、寫真帖、新刊書籍、雜誌、新聞紙等あり、甲板には輪投其他各種の消閑具を備へ、乗客各位の旅情を慰むるに勉めつゝあり、試に葡萄酒

「オツカー」の芳醇に一醉を買ふて、或は鳥籠を戦はせ、或は蓄音器によりて囀々切々たる絃聲を耳にし給はゞ、身船中にあるを忘れ、恍然として華行に入るの思あらむ、三等客室に於ても、各自寢臺の區劃を明かにして其間に食卓を配置し、冬季に於ては一二等客室と同じく、蒸氣暖房管を室内に貫通し、並に藁布團を備ふるを以て、春夏秋冬行旅に佳からざるはなく、一度給仕に命じ給はゞ和洋酒類茶菓罐詰類美麗なる繪葉書等は、坐ながら之を手にするに得、優に太平洋航路に於ける特別三等に勝るを見る、

浦鹽廻航線に使用する船舶は、久しく此航路に従事せる交通丸にして、長さ二百四十呎幅三十四呎、深さ二十二呎、總噸數一千六百噸速力十二海里にして、乗客定員は一等八人、二等二十四人、三等三



小樽港



橋 棧 港 森 青

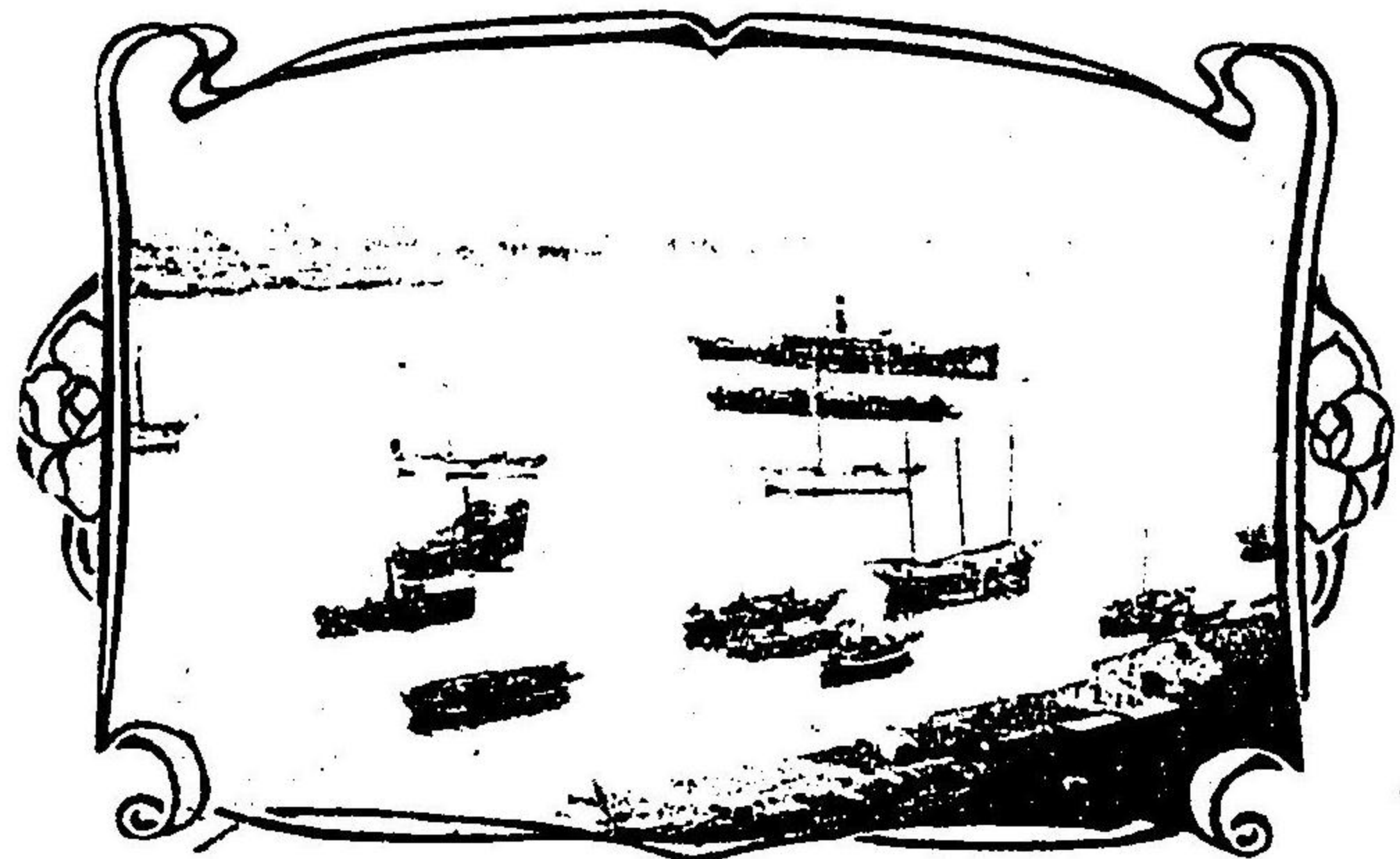
百四十九人を容るゝに足り、食堂の裝飾は善美を盡し、船内遊戯具の備付、船内賣品の準備、蒸氣暖房管の設備等一として備はらざるなし。

若し夫れ船内の食事並に接待向に至りては、我會社の最も腐心せる所にして、各部船員何れも粹を抜き、供用肉菜類は冷蔵庫に貯藏するを以て、常に最も新鮮なるものを調進し得べく、一たび當航路社船の旅客となり給は、必ずや食事の善美と船員の接待振に付て、常に記憶を新にし給ふなるべし。

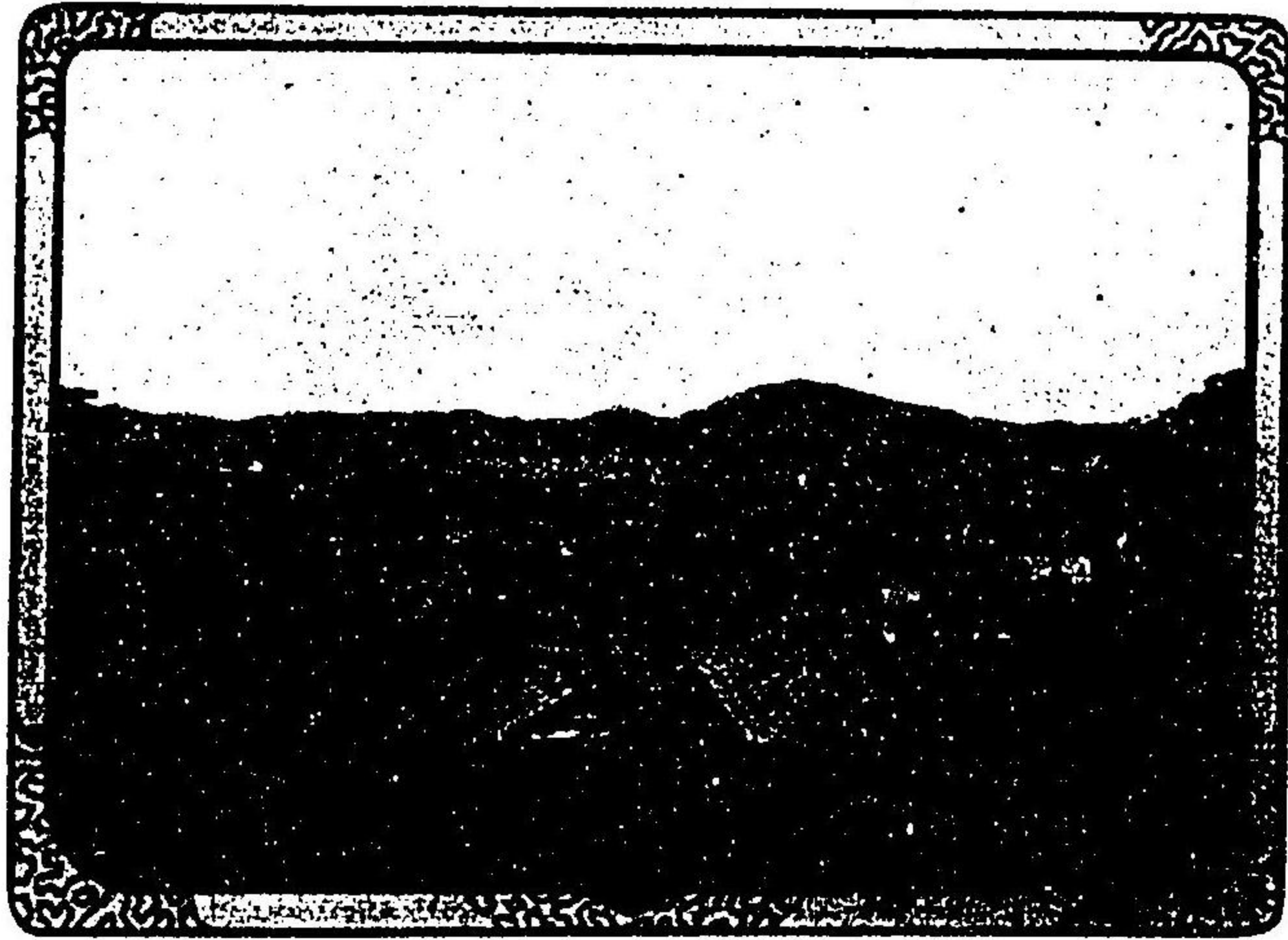
浦鹽直航船の航程

設備に於て接待に於て、將た又速力に於て間然する所なき我風山丸は毎週月曜日午後五時敦賀(當社代理店大和田商店)を發し、茲に我大日本帝國の山河を辭す、願れば山容水態濤くが如く、青波深く灣内を浸して漁舟畫舫恰ら鳧雁に似たり、已にして暮色蒼然として到り、水

天渺茫一髮の青山を見ず、翌火曜日終日決々たる日本海の間を駛す、針路は概して北微西二分一とす、水曜日拂曉に至れば、前途遙に「アスコルド」島燈臺を望むを得べく、航路は是れより該島の西岸を廻りて「スクレイブリヨフ」と「バザルキン」岬との間に轉針して露西亞島海峡に入り、右折して午前十一時頃浦鹽港内に入る、斯くて本船は浦鹽商港の中央最も便利なる棧橋に横付けられ、舷梯より、直ちに亞細亞大陸に第一步を印することを得、敦賀を發してより航程四百九十二哩、約四十時間とす、而して復航



港 賀 敦 丸 山 風



港 賀 敦

浦鹽廻航船の航程

浦鹽廻航線の起點地は、北海道中函館に次ぐ良港たる小樽にして、浦鹽と略同一緯度にあり代理店は鹽田回漕店にして、同市南濱町にあり、交通丸の此地を發するは第一日目の午前十時にして、第三日自午前六時浦鹽に着す、此間の航程實に四百五十哩約四十時間を要す、浦鹽に碇泊するもの二日(冬季は三日)第六日(冬季は第七日)に此處を發し一旦小樽に歸着し更に函館青森に往返す、之を甲線とす、乙線は小樽を發し浦鹽に趣き七尾に歸り伏木、夷、新潟を経て、小樽に回航するものにして、天候の都合によりては、伏木、新潟に寄港せざることもあり。

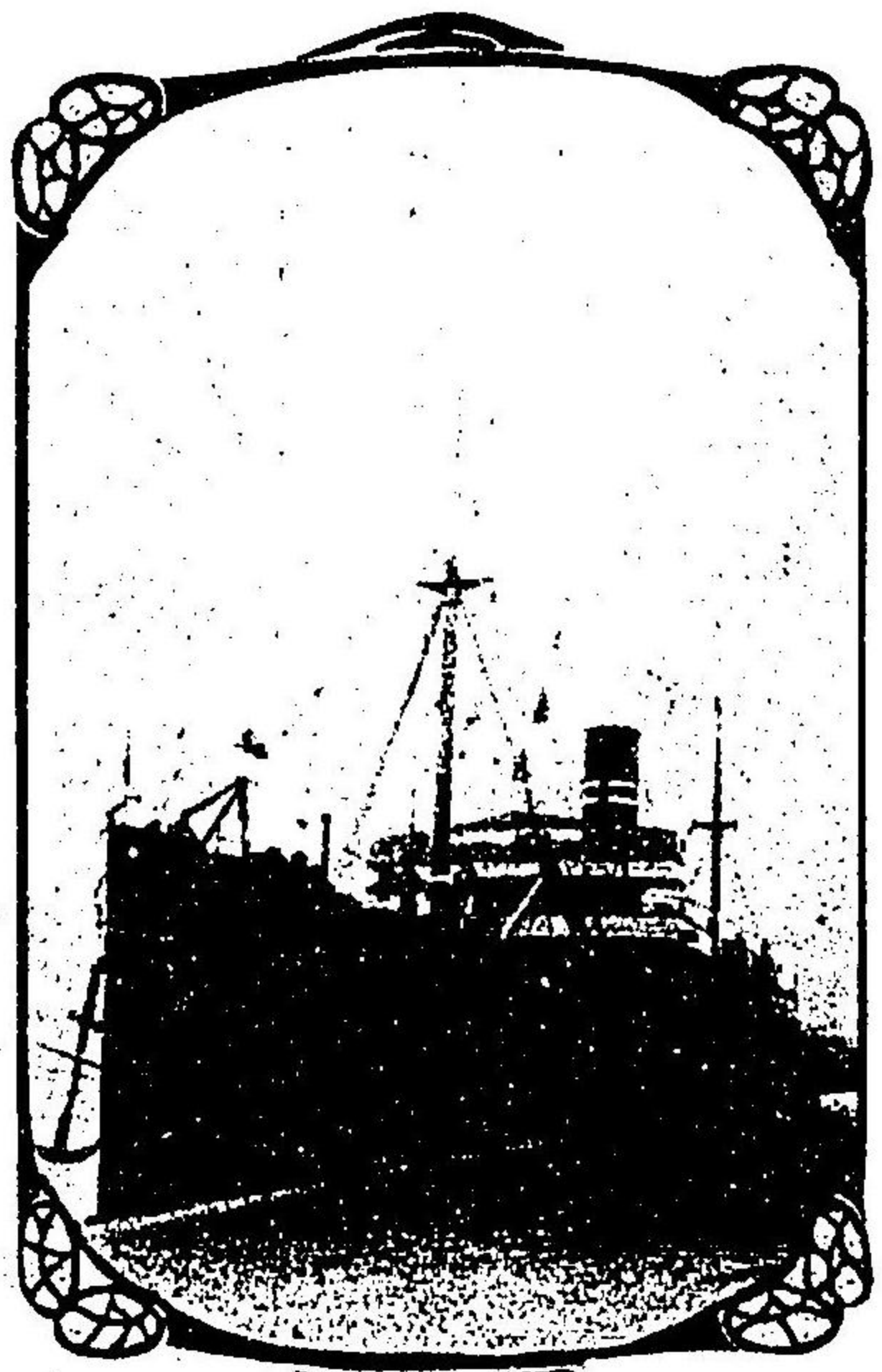
函館は我邦最北端の開港場にして、北海道中の最良港たり、有名な五稜廓は市を距る事僅かに二里、代理店は其榮倉庫回漕部にし

敦賀港

浦鹽直航線の起點地たる敦賀港は、裏日

本の最良港にして北陸道の南端にあり、之より北の官方有鐵道北陸線によりて、金澤、富山、七尾等の都市に達するを得べく、東南米原を経て東海、山陽の都邑に至るを得、實に中部裏日本の樞地となす、市街は灣に沿ふて東西一哩、南北半哩の間に擴り、人口一萬八千餘、之れ

て、仲濱町にあり、



橋 棧 浦 丸 山 風



ニラコイ門

實に延暦の昔、新田義貞後醍醐帝の御旨を畏み成良親王を奉じて此處に築き、遂に足利尊氏と相對峙せし處、金ヶ崎の城址、長へに當年義烈の跡を談る、氣比神社、金崎神社共に松濤の間に訪ぬべく、金崎神社に隣れる鴨ヶ岬公園及市街の西端に近き松原公園亦杖を曳くに値す

敦賀港に於ける我社の代理店は、大和田商店回漕部にして、店は海岸敦賀税關の前にあり、敦賀停車場より約十町、人車を驅れば約十分

にて達し得べく、賃金拾五錢(雨、雪天)にて足れりとす、携帶手荷物は停車場より本船迄一個平均五錢にして、當社徽章赤色「大」字入帽章を有する赤帽夫を常置して、専ら停車場本船間に旅客各位の用を便せしむ、旅館の重なるものは左の如し、

- 敦賀 ホテル 和風宿泊料 四 一食約 貳 圓
- 洋風同上 四
- 森仲 ホテル 洋風同上 參 圓同上 壹圓 貳圓
- 熊谷 旅館 和風同上 壹圓五拾錢 同上 六拾錢
- 具 足 屋 同上 同上 壹圓五拾錢 同上 六拾錢

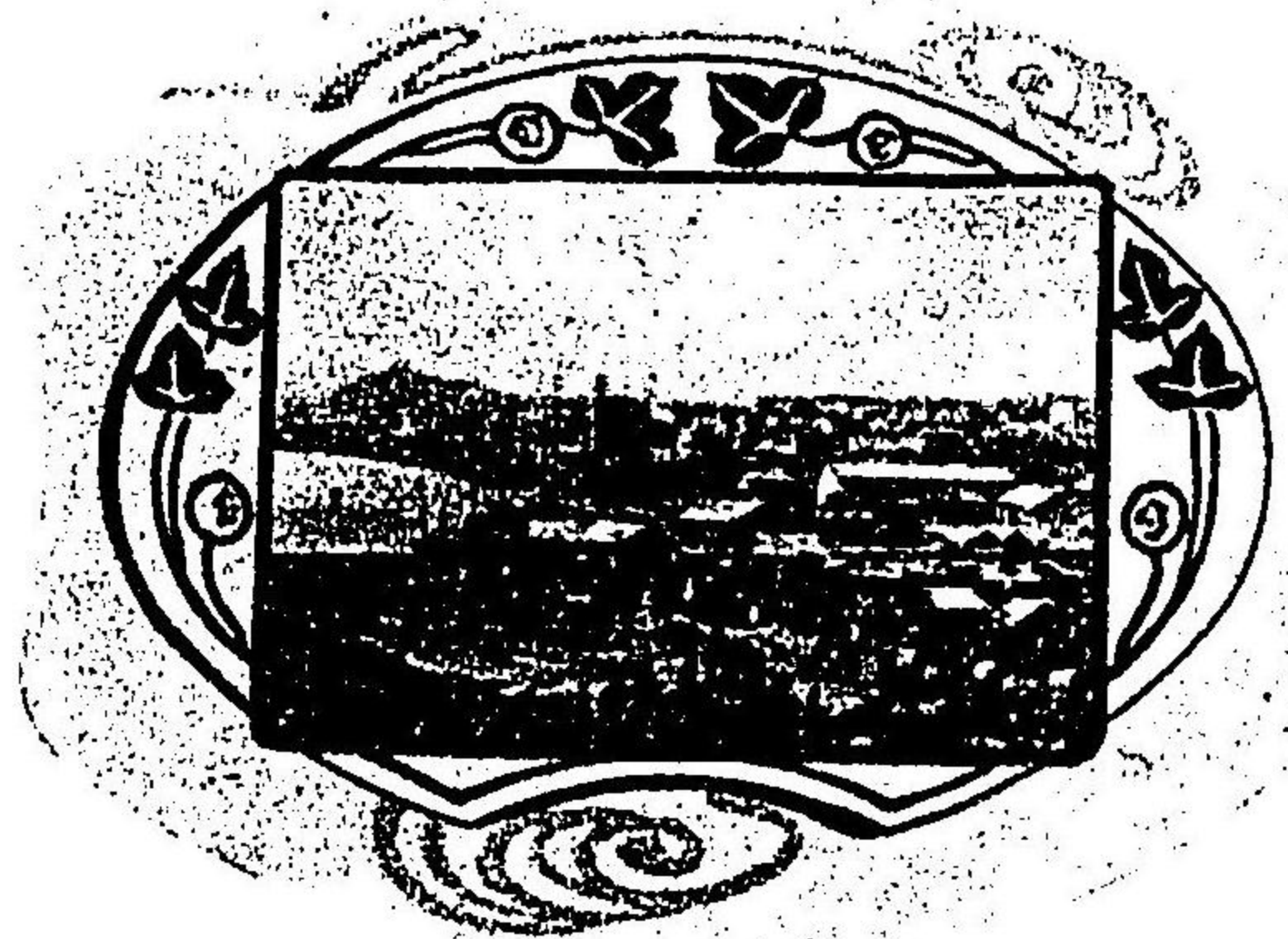
社船は港内中央に位せる當社所有の浮標に繫留し、通船賃は船客に限り無貨とす、乗船切符は當社各支店代理店に於て求めらるべし其賃金等左の如し

- 一 等 (洋食) 三〇、〇〇
- 二 等 (洋食) 一八、〇〇

- 二 等 (和食) 一四、〇〇
- 三 等 (和食) 七、〇〇

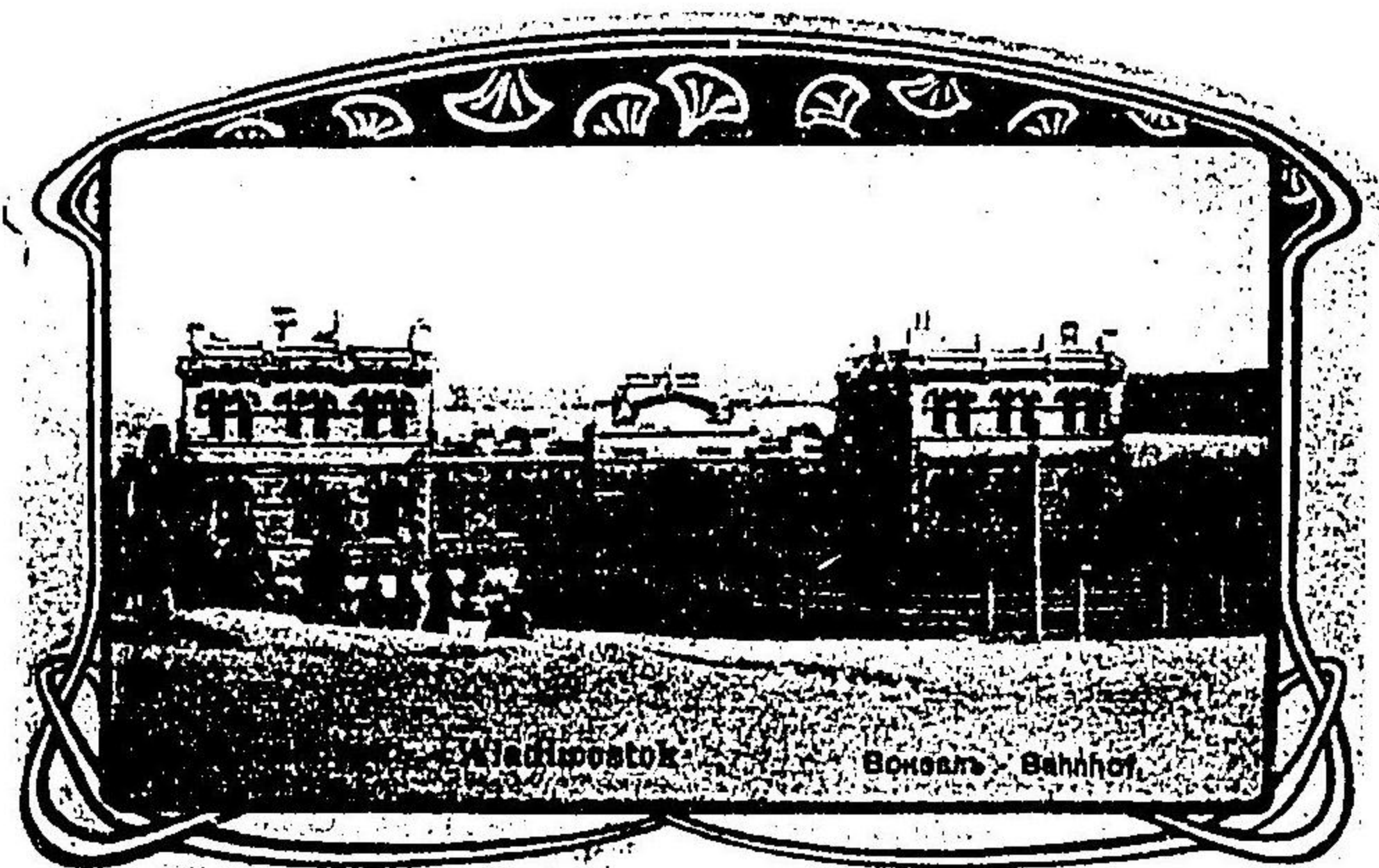
- 小兒十二歳未満は半額、四歳未満一人限り無貨他は定率の四分一を中受く
- 往復切符は(壹貳等に限り)復航運賃を二割引とし、有効期間は三ヶ月
- 手荷物は一、等。百五十斤 二、等。百二十斤 三、等。六十斤 未満は無貨とす

敦賀に於ける船車連絡 歐洲行急行列車に連絡する我が鳳山丸は已に述べたる如く、毎月曜日敦賀を發して浦塩に向ひ、毎日曜日午前五時頃敦賀に歸着するを以て之に連絡する帝國鐵道廳列車時間は左の如し

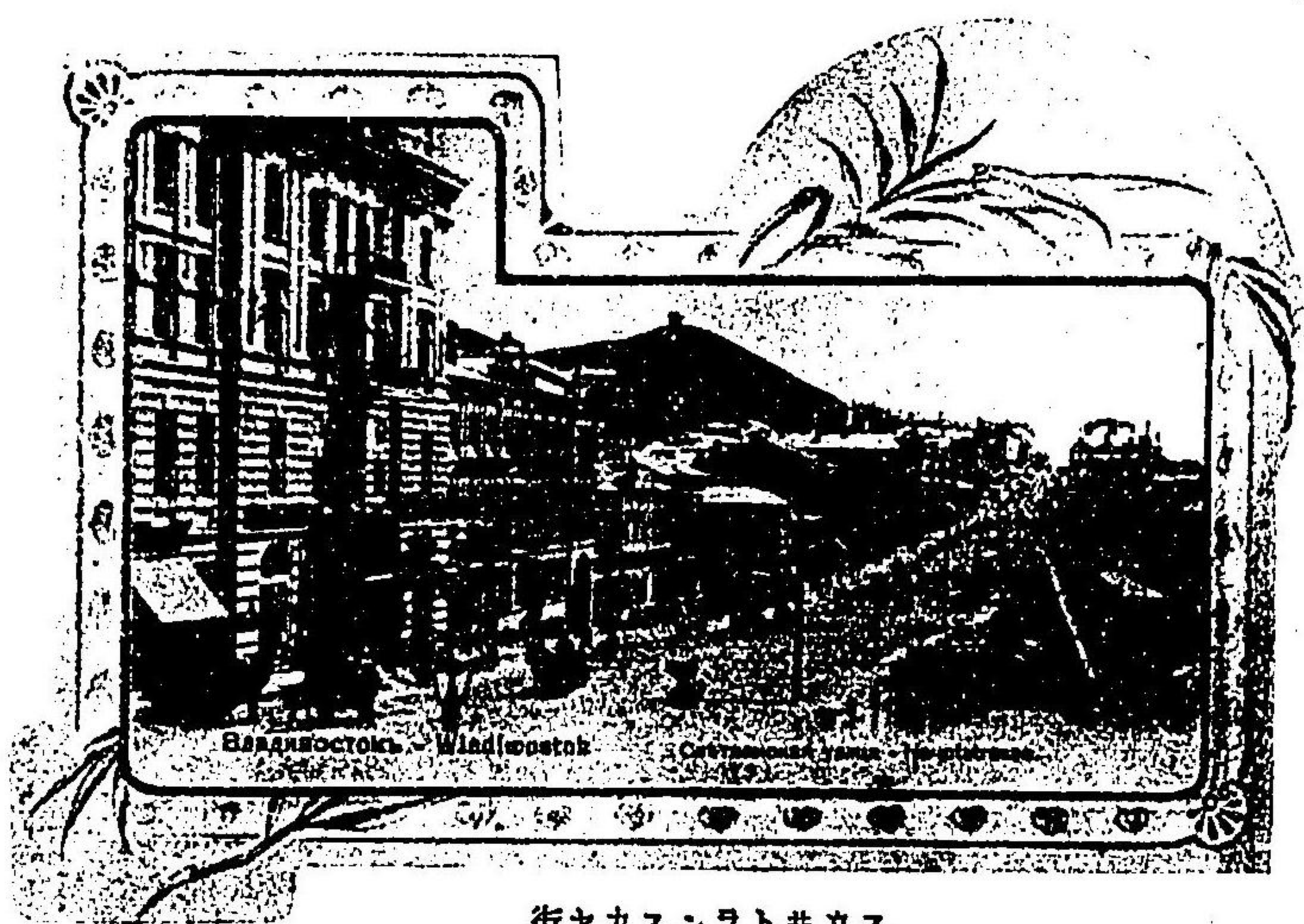


| 敦賀行 (米原ニテ乗替) | | 敦賀ヨリ (米原乗替) | |
|--------------|---------|-------------|---------|
| 東京(新橋)發 | 後 三時三十分 | 敦賀發 | 前 七時三十分 |
| 横濱(平沼)同 | 後 三時四十分 | 米原發 | 前 七時四十分 |
| 名古屋 | 後 三時五十分 | 京都同 | 前 七時五十分 |
| 神戸同 | 後 四時 | 大阪同 | 前 八時 |
| 名古屋同 | 後 四時十分 | 神戶同 | 前 八時十分 |
| 横濱(平沼)同 | 後 四時二十分 | 東京(新橋)同 | 前 八時二十分 |
| 東京(新橋)同 | 後 四時三十分 | | |

□ 發着列車連絡 各等急行 × 二 等急行 ○ 三 等急行 ● 敦賀神戸間直通

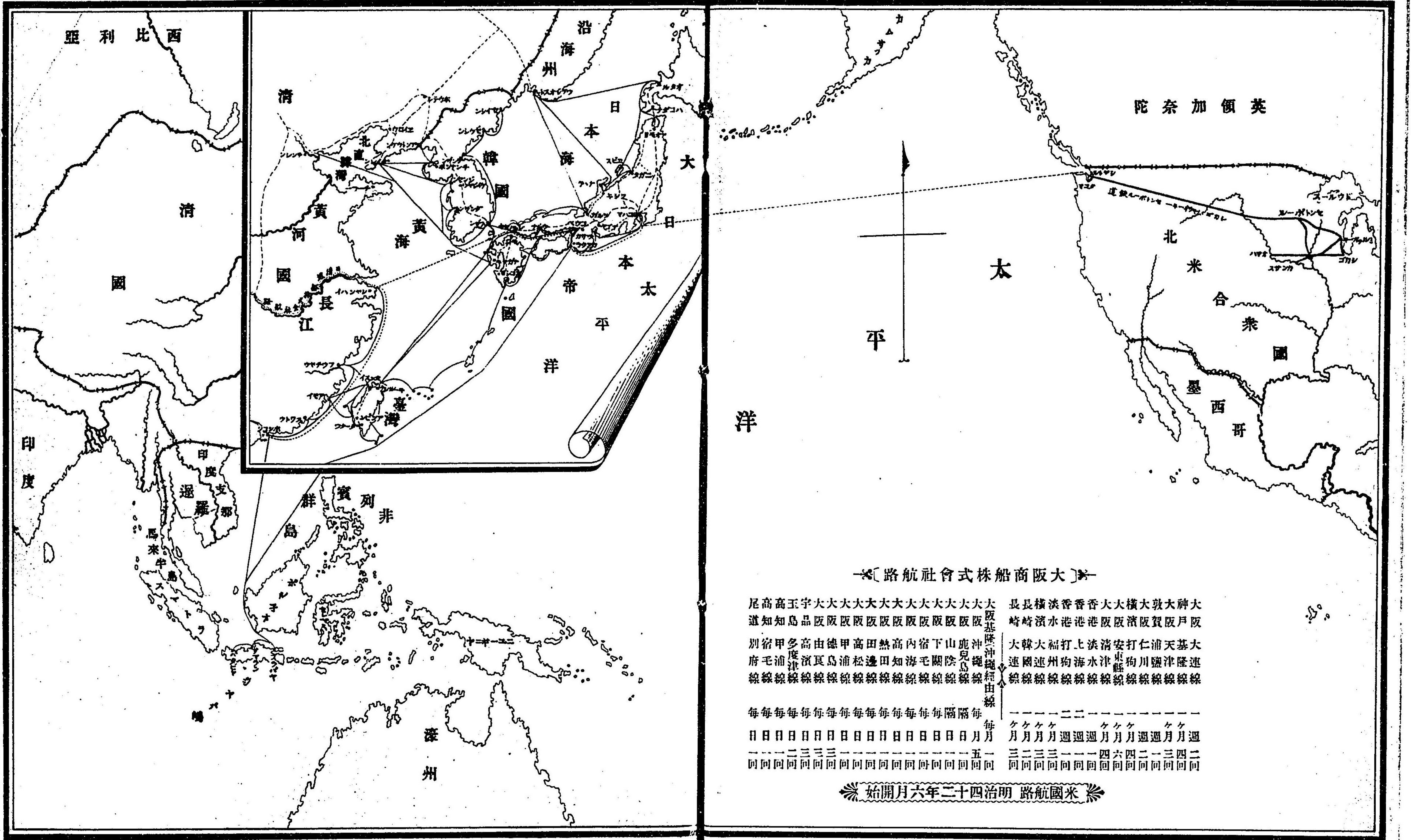


浦鹽停車場



スウチヤカス街

大阪商船株式會社航路附圖 鐵路航線圖



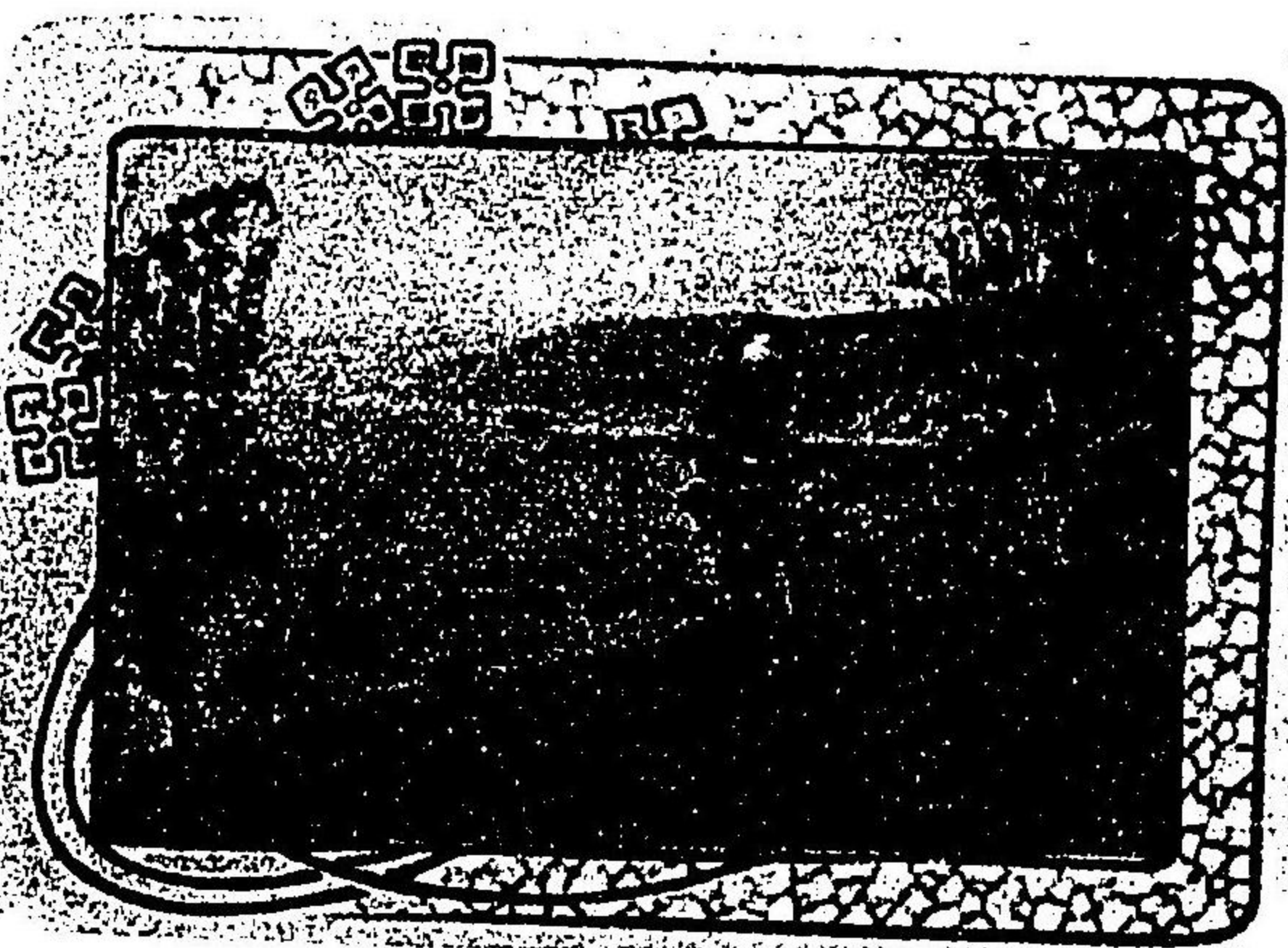
大阪商船株式會社航路

| | |
|--------------------|-----------------|
| 尾高玉宇大大大大大大大大大大大大 | 長長橫淡香香香大大橫大大神大 |
| 道知島品阪阪阪阪阪阪阪阪阪阪阪 | 崎崎濱水港港港阪阪阪阪阪阪阪 |
| 別宿甲多高由德甲高田熱高內宿下山鹿沖 | 大韓大福打上淡清安打仁浦天基大 |
| 府毛浦度濱真島浦松邊田知海毛關陰兒 | 連國連州狗海水津縣狗川鹽津隆連 |
| 線線線線線線線線線線線線線線線 | 線線線線線線線線線線線線線線線 |
| 每每每每每每每每每每每每每每 | 每 |
| 日日日日日日日日日日日日日日 | 月月月月月月月月月月月月月月 |
| 一一一三三三三三三三三三三三三 | 三三三三三三三三三三三三三三 |
| 回回回回回回回回回回回回回回回 | 回回回回回回回回回回回回回回回 |

始開月六年二十四治明路航國米

浦鹽斯德 我浦直航線の終點並に同航線の重要寄港

地にして、歐洲行列車の極東に於ける起點地たる浦鹽斯德は、敦賀を距ること北四百九十二哩、露都「セントピーターズブルグ」を距る事東九千八百七十七哩、^{ウエルスト}「ムラゾイヨフ、アムールスキー」半島の南端に位し、即ち北緯四十三度六分五十一秒、東經百三十一度五十四分二十一秒にあり灣形牛角に類するの故を以て別に呼んで**金角港**（Golden Horn Harbour）を稱せらる、東西一萬四千九



金角港の風景

百五十呎、南北二千八百呎、水深六十呎乃至七十呎、優に五千噸の商船六十隻を容るゝに足る、市街は三面山を背ひ、一面僅かに海に向て開く、其高さ海拔二百呎乃至七百呎、東西に狭長なる市街の、金角港と相映發する所其景や實に雄大也、我大阪商船株式會社代理店杉浦商店は鳳山丸繫留棧橋より數町指顧の間に在り、旅客各位にして市内を巡覽せん

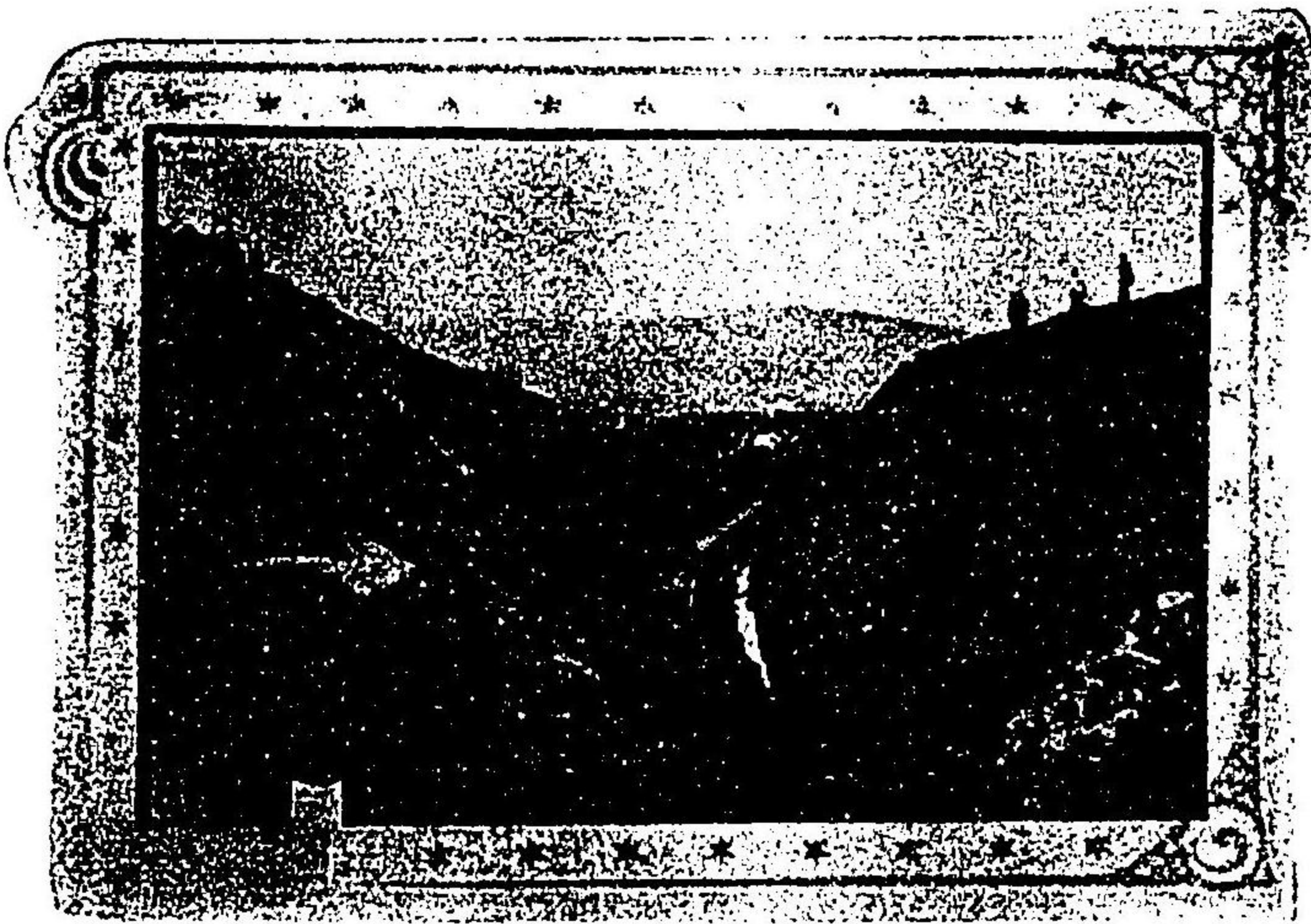
（Admiral wharf）に在り、當時皇太子たりし現帝「ニコラス」一八九一年我國巡覽の歸途、先帝の敕を奉じて、「ウスリー」線起工式に臺臨ありし時の紀念門なり、博物館は一八八四年の創立に屬し、「ニコライ門」の東隣「スウキトラスカヤ」街にあり、藏品珍奇亦一顧の値あり、公園は二あり、一は「スウキトラスカヤ」街と舊市場の間に在り、他は海軍俱樂部と舊港務局との間にあり、境内廣からずと雖も又以て旅情を暢叙するに足らむ、而して市内目拔の場所は

敦賀、各驛間旅客賃金表

| 米 | 京 | 大 | 神 | 名 | 古 | 戸 | 敦賀(平沼) | | | 哩 |
|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|-----|
| | | | | | | | 一等 | 二等 | 三等 | |
| 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 | 2.50 | 2.75 | 3.00 | 3.25 | 3.50 | 100 |
| 1.00 | 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 | 2.50 | 2.75 | 3.00 | 3.25 | 80 |
| 0.75 | 1.00 | 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 | 2.50 | 2.75 | 3.00 | 60 |
| 0.50 | 0.75 | 1.00 | 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 | 2.50 | 2.75 | 40 |
| 0.25 | 0.50 | 0.75 | 1.00 | 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 | 2.50 | 20 |

ニせば我代理店員は奮ふて各位の便宜を圖るに吝ならざるべく、各位を接待する實に懇切を極む、市内遊覽は普通馬車を驅るを便とし、馬車賃は一時間一留の割合にして一區一人若くは二人迄は二十五哥なり、且區の區制は外來者の解し易らざる所なるも、市の中央なる寺院を第一第二區の境と思は、蓋し大差なからん、遊覽の箇所は、ニコライ門、博物館、公園、

等にして、「ニコライ門」は海軍埠頭



路鐵の頂山ルラウ

即ち「スウキトラスカヤ」街にして、諸官衙、俱樂部、大商店等此間に薨を駢べ、日用必需品は凡て此處に於て調ふるを得べし、旅館の重なるものは、

洋風

グランド、ホテル アレウツカヤ街 宿泊料
 ソロトク、ローグ 同 上等 三留/十留
 セントラル、ホテル アレウツカヤ街角 二等 二留/七留
 シピルスキーホドウカヤ街 キタイトカヤ街

和風

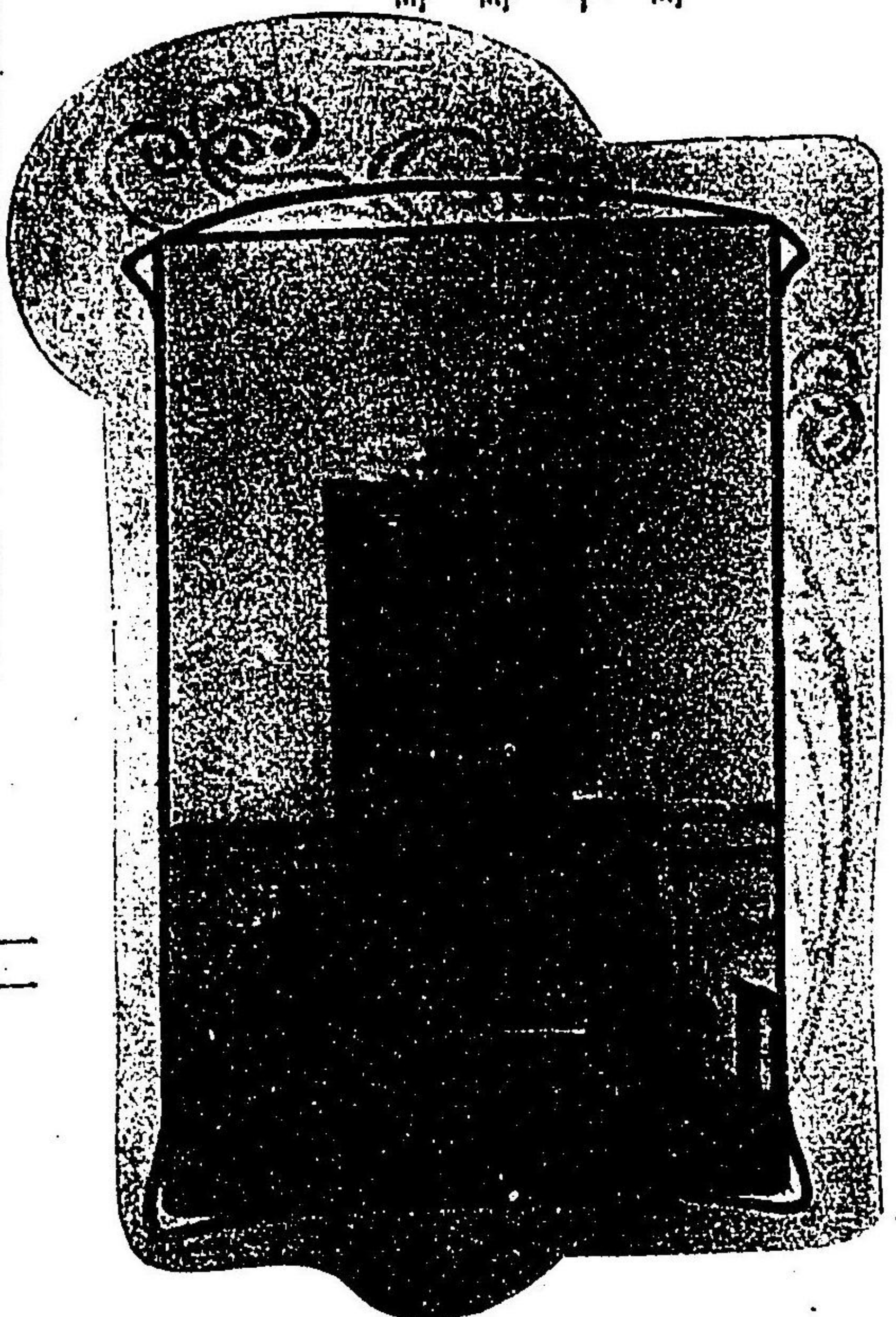
徳永旅館 宿泊料
 徳重旅館 三留位
 扶桑旅館

等にして、各銀行並に其營業時間左の如し、

松田銀行(杉浦商店内) 午前八時/午後四時
 クンスト、アルベルス銀行同 九時/同六時半
 西比利亞銀行 同 九時/同二時
 露清銀行 同 九時/同二時

西比利亞大鐵道 歐洲行列車の浦鹽

を發するものは、毎日發車する普通列車の外、毎週三回一二等連結急行列車あり、(何れも當



橋鐵大ガロオヴ

分の内「イルクティック」にて乗換へ。其水曜日及土曜日に浦塩を發するもの並に木曜日及水曜日に浦塩に着するものを、露國々有急行列車とし、月曜日に發するもの並に日曜日に着するものを、萬國寢臺列車會社急行列車とし、而して我敦賀浦塩直航船の接續すべき國有列車並に寢臺列車會社列車の發着時間左の如し、(船車連絡一覽表参照)

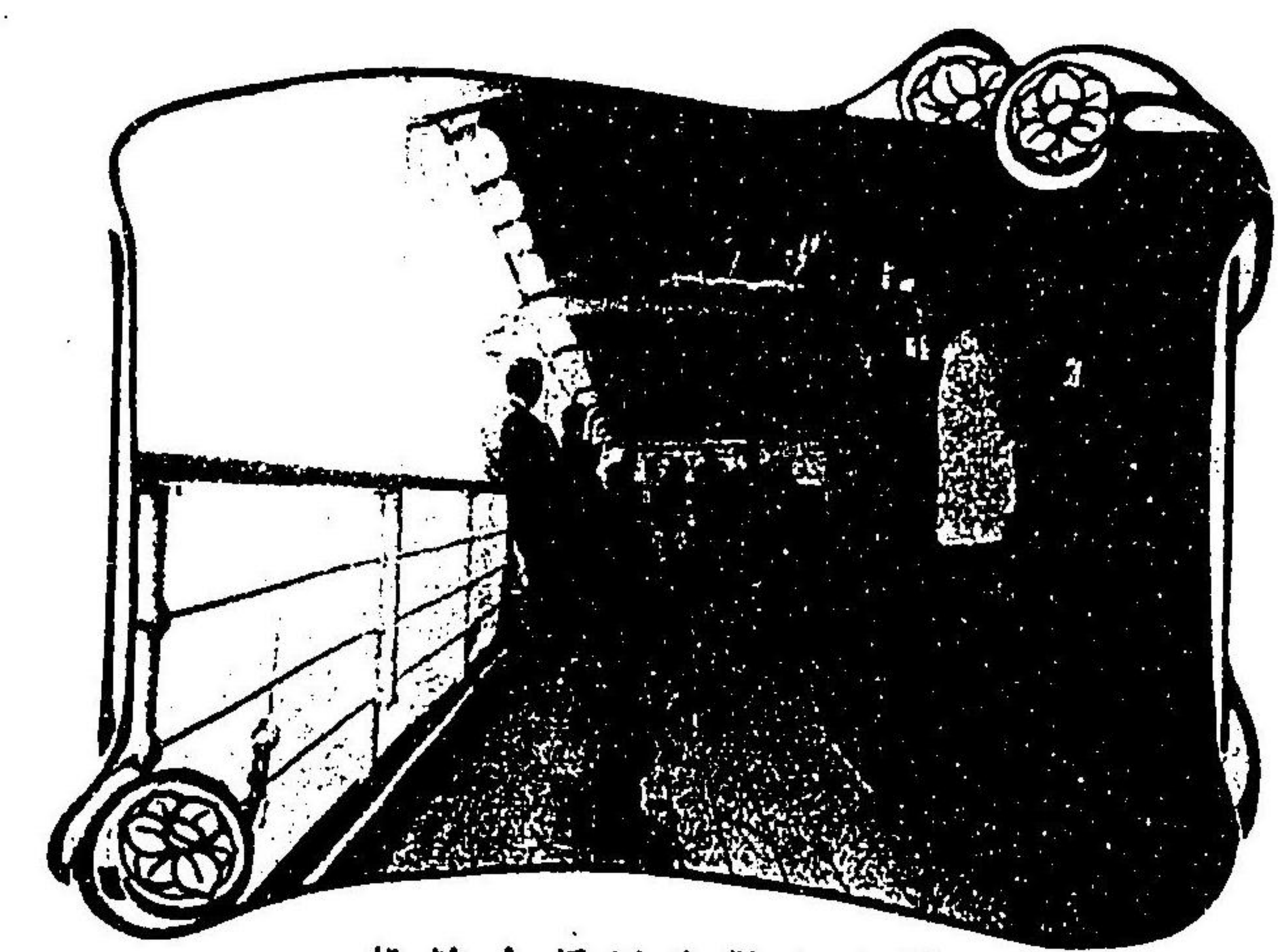
(四十二年五月一日改正)

| | | |
|-----|-----|-------------|
| 歐洲行 | 浦塩發 | 午後 四時六分 |
| 歐洲來 | 浦塩着 | 午前 十時 |
| 歐洲行 | 浦塩發 | 毎日 午後 六時二十分 |
| 歐洲來 | 浦塩着 | 毎日 午前 七時四十分 |

但し右は「ハルビン」標準時にして、浦塩時より二十一分遅くなる、
此外歐洲行二三等通常列車の發着は

| | | | | |
|--------|---------|---------|---------|-----|
| 國有急行列車 | 一等 四元九角 | 二等 三元五角 | 三等 二元二角 | 留單位 |
| 寢臺會社列車 | 一等 四元五角 | 二等 三元二角 | 三等 二元一角 | 留單位 |
| 通常列車 | 一等 三元五角 | 二等 二元二角 | 三等 一元五角 | 留單位 |

ハルビンイルクティック モスコウ ピーターズブルグ



投輪上板甲步散丸山風

○手荷物は六十露斤(一露斤は約我百九匁)限り無貨せず、但し大形又は釘付のもの、外、小形靴、籠物等は一人にて五六個位は列車内に持込むことを得、制限外手荷物の運賃は、浦塩、モスコウ間一露斤約二留七十哥位の割也

歐洲行急行列車 西比利亞鐵道は露國式廣軌々道にして車幅亦豊かなり、列車は凡て「ボギー」貫通式にして、其の編成は貨車一輛、食堂車一輛、一等車一輛、又は二輛、二等車二輛又は三輛より成る、一等車には寢臺二個を有

する室七、三個を有するもの一あり、各室内には椅子卓子等を備へ、車輛の兩端には洗面所あり、二等車には寢臺二個のもの三、四個のもの五にして、車輛の兩端には同じく洗面所の設けあり、食堂車は四人テーブル六個及二人テーブル六個あり、食事は一食又は一皿宛何れも旅客の需に應ず、食料金は、

| | | |
|--------|--------|--------|
| 朝食(一食) | 露風 五五 | 英佛式 五五 |
| 晝食(同) | 同 一、〇〇 | 同 一、五〇 |
| 夕食(同) | 同 一、二五 | 同 二、〇〇 |

にして之に連結せる貨車には、旅客手荷物を入るゝの外、浴場を設けて隨時旅客の需に應ず、(一回の浴料一留五十哥)にして之に連結せる貨車には、旅客手荷物を入るゝの外、浴場を設けて隨時旅客の需に應ず、(一回の浴料一留五十哥)

浦鹽停車場 は我鳳山丸繫留棧橋と厩厩の間にあり、手荷物の運搬業者には官許のものあり、本船停車場間一個二十哥にして、本船より馬車に積込むものも亦二十哥を徴す、乗車券は東清鐵道會社支店(スウキトランスカヤ街)萬國寢臺列車會社事務所(アレックカヤ街グランドホテル隣)及停車場の三箇所に於て發賣するも停車場に於ては發車一時間前に非ざれば發賣せざるを以て、客室の選擇等に不便少からず、一般旅客は寧ろ東清鐵道會社支店又は萬國寢臺列車會社に於て購入せらるゝを便とす、(但し二分の手數料を要す)浦塩に於ける乗車券發賣區域は目下「モスコウ」又は「セントピーターズブルグ」迄にして、更に西せんとするものは、同地に於て新に乘車券を購入するを要す、

浦鹽並に西比利亞の寒氣は實に言語に絶し、冬季は氷點以下二十七度乃至二十八度に下る事往々にして之あるも秋季天麗かに金風拂拂をふの時は、之れ即ち西比利亞に於ける最好時季にして、行旅遊覽共に趣最も深く、若し夫れ去りて「バイカル湖畔に嘯き、崔嵬天を摩する「ウラル」山頭に歐亞兩洲を睥睨し、九天直下「ボルガ」の大鐵橋を渡りて「モスコウ」の舊帝都を訪ふが如んば、行旅の快之に過ぎたるはなかるべく、吾人は我大日本帝國の紳士淑女各位に向て、徒に小天地に跼踏することなく、進んで我浦鹽航路の船客となり、眼を雄大なる山川の景物に放たれんとを切望す

日露、度、量、衡、貨幣、對照表

| | | | | | | |
|----------|----------|----------|------------|----------|-------|--------------|
| ○貨幣 | 一留「ルーブル」 | 百露「コバック」 | 我約一圓、〇三錢二厘 | ○量 | 一ウエトロ | 六升八合四 |
| 一露「コバック」 | 同 | 同 | 一錢 | 一コルリ | 同 | 六斗八升三八 |
| ○長サ | 一アルシ | 同 | 二尺三寸四六九 | 一チエトウゴルト | 同 | 一石一斗二升八合二 |
| 同「平方」 | 同 | 同 | 五平方尺五〇三 | 一ゾロトニークト | 同 | 一匁一三三 |
| 一サーザン | 同 | 同 | 七尺〇四分〇八 | 一ソントニークト | 同 | 百〇九匁二 |
| 一ウエルスト | 同 | 同 | 九町四十六間五尺 | 一ブワート | 同 | 四貫三百六十八匁二九 |
| 一テシアサン | 同 | 同 | 一町一反四八 | 一バーコウ | 同 | 四十三貫六百八十二匁九六 |

浦鹽航路客乘運賃表

(明治四十四年一月)

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 從 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 至 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 浦鹽 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 小樽 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 浦鹽 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 七尾 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 新潟 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |
| 小樽 | 浦鹽 | 七尾 | 新潟 | 小樽 |

特別割引
● 日本陸海軍人
各等 貳割引

外交官及其家族
一、二等 限リ
壹割五分引

函館小樽浦鹽線 (甲線)
青森 一等 三三〇、二等 二七〇、三等 二一〇、和食 一七〇、洋食 一三〇、和食 一〇〇、洋食 七〇、和食 四〇、洋食 二〇

敦賀浦鹽直航線
敦賀 一等 二二〇、二等 一七〇、三等 一三〇、和食 一〇〇、洋食 七〇、和食 四〇、洋食 二〇

七尾伏木間
七尾 一等 一三〇、二等 一〇〇、三等 七〇

伏木 一等 一〇〇、二等 七〇、三等 四〇

浦鹽航線發着表

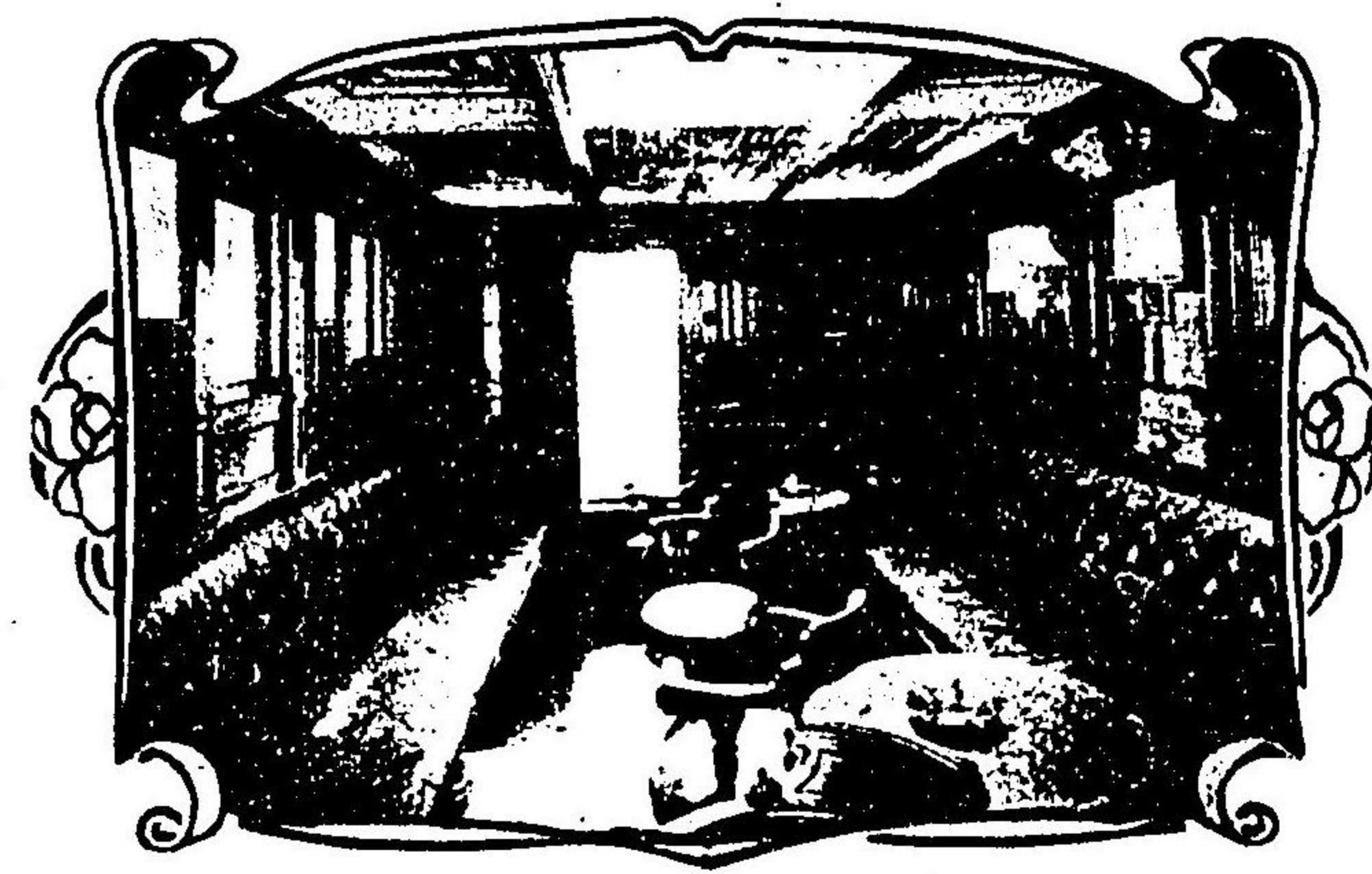
浦鹽直航線發着表

| 港名 | 發着時間 | 甲線 | 乙線 |
|----|------|-----|-----|
| 小樽 | 前六時 | 第一日 | 第一日 |
| 浦鹽 | 前六時 | 第三日 | 第三日 |
| 小樽 | 前六時 | 第七日 | 第七日 |
| 函館 | 前八時 | 第十日 | 第十日 |
| 七尾 | 前八時 | 第十日 | 第十日 |
| 伏木 | 前八時 | 第十日 | 第十日 |
| 夷 | 前六時 | 第十日 | 第十日 |
| 新潟 | 後十時 | 第十日 | 第十日 |
| 青森 | 正午 | 第三日 | 第三日 |
| 小樽 | 正午 | 第七日 | 第七日 |

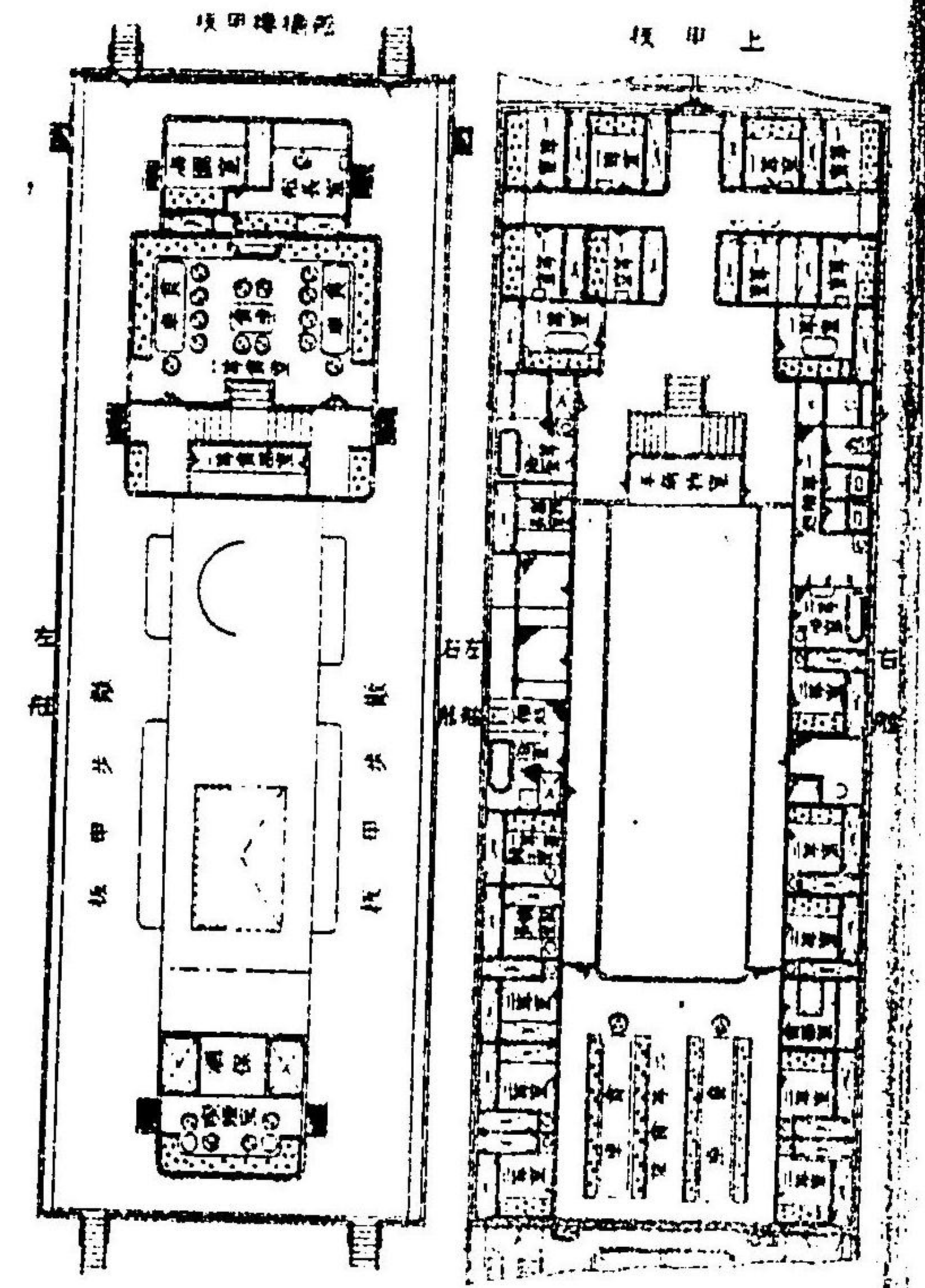
| 航往 | 船名 | 航復 |
|----|-----|----|
| 着發 | 鳳山丸 | 着發 |
| 着發 | 鳳山丸 | 着發 |
| 着發 | 鳳山丸 | 着發 |

○部合により變更するに可あるべし

鳳山丸客室平面圖



鳳山丸喫煙室



乘船券取次所

- 東京代理店 八幡屋回漕店
- 東京市日本橋區 小網町二丁目
- 橫濱代理店 山形屋回漕店
- 橫濱市海岸通
- 敦賀代理店 大和田回漕部
- 敦賀町海岸通
- 浦鹽代理店 杉浦商店
- 京都代理店 島居長左衛門
- 京都市柳馬場錦小路北へ入ル
- 青森代理店 藤林源右衛門
- 青森市濱町
- 東京代理店 銀座切符發賣所
- 東京市京橋區竹川町四番地
- トーマスクック父子商會
- 倫敦、香港、橫濱、等
- エーチ、ビー、ダーク子
- 橫濱市元居留地海岸
- サミュエルサミュエル商會
- 神戸市元居留地
- ホルム、リッガー商會
- 長崎
- 函館代理店 共榮倉庫回漕部
- 函館區仲濱町
- 小樽代理店 堀田回漕店
- 小樽區南濱町
- 新潟代理店 鍵三合資會社
- 新潟市上大川前通十番町
- 七尾代理店 樋瓜商會
- 七尾町字府中町
- 伏木代理店 伏木回漕會社
- 伏木町大字港町
- 伏木町大字港町
- 兩澤町 大字夷

關係支店及代理店

- 大阪支店
- 大坂市北區富島町
- 神戶支店
- 神戶市海岸通
- 門司支店
- 門司市港町
- 下關支店
- 下關東南部町
- 長崎支店
- 長崎市樺島町

22

441

